



2020年12月18日

各位

会社名 株式会社パシフィックネット  
代表者名 代表取締役社長 上田 満弘  
(コード番号 3021 東証第二部)  
問合せ先 取締役副社長 大江 正巳  
(電話番号 03-5730-1442)

## 2021年5月期第2四半期・業績予想に関するお知らせ

2021年5月期第2四半期(2020年6月1日～11月30日)の連結業績予想を下記の通りお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2021年5月期第2四半期・連結業績予想(2020年6月1日～2020年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
今回発表の予想 (2021年5月期第2四 半期累計)	2,470	350	350	235	46.65
前期実績 (2020年5月期第2四 半期累計)	2,195	206	205	130	25.57
前期比増減率(%)	12.5	69.2	70.3	80.6	—

12月8日付「当社グループ全従業員に対する、特別賞与等の支給決定のお知らせ」でご報告しましたとおり、第2四半期(9～11月)は、特別賞与等による追加コスト約36百万円を計上しても、過去最高益だった第1四半期を上回り、四半期実績・半期実績とも過去最高を更新する見込みです。セグメント別では以下の通りです。

まず、ITサブスクリプション事業についてです。情報機器の中長期レンタルはコロナ禍により商談が長期化傾向となっておりますが、ストック型(積み上げ型)の収益特性から、月額レンタル料収入(サブスクリプション売上高)は着実に増加しました。短期レンタルはテレワーク需要等により前期を上回って推移しました。ITサービスは、情報機器管理のアウトソースサービスや、Microsoft365等のサブスクリプションの受注が拡大いたしました。

加えて、大企業を中心に導入が今後加速すると想定され、かつ当社グループが日本トップレベルの技術力と構築実績を有する「Autopilot/Intune(※)」等の新技術の商談・受注が増加しております。

※：Autopilot／Intune（正式名称は、Windows Autopilot／Microsoft Intune）

Microsoft社が提供するクラウドサービスの新技術。

法人等で新品PCを社内配布する際、事前に自社のセキュリティポリシーに合わせたWindows基本設定、ネットワーク設定、業務用アプリケーションインストールなどが必要であり、情報システム部門に相当な負荷がかかっていました。

Autopilotは、利用者が新品PCを起動した際に、この設定作業をクラウド経由で自動的に実行する「ゼロタッチ」ソリューションであり、大企業中心に導入や検討が始まっています。また、Intuneは、社内使用のすべての情報機器やアプリケーションを一元的に管理・制御するクラウドサービスで、Autopilotと組み合わせることで、情報システム部門の手間を大幅削減しながら、テレワークや働き方改革で大きな課題となっているセキュリティ強化やモバイル機器の制御が可能となります。この技術力を有するエンジニアは世界的にも日本でも極めて少ない状況にあります。当社は大企業案件での構築実績、導入支援やエンジニア教育実績を豊富に有しており、技術力・ノウハウはトップクラスです。

ITAD事業については、第1四半期は減収・減益でしたが、データ消去サービスの好調な受注、リユース販売強化、社内DX（業務IT化等）などの収益性向上策が寄与し、第2四半期会計期間は増収・増益となり、累計では若干の減収なるも2桁以上の増益となる見込みです。

コミュニケーション・デバイス事業については、観光需要の影響を受けたものの、日本旅行業協会のコロナ対策ガイドラインにガイドレシーバーが推奨されたこと、観光需要が復活傾向にあることから、のれん償却費控除前の単体利益では黒字を確保し、のれん償却費控除後であるセグメント損益では小幅な営業損失にとどまる見込みです。

コスト面では、IT人材拡充、レンタル資産拡大、基幹システム投資、社内DX（業務IT化）等の戦略投資を引き続き行いましたが、増加分は収益拡大と生産性向上でカバーしております。

## 2. 通期の業績予想に関して

上期（6～11月）の各利益は半期で過去最高、通期業績予想に対して約70%の進捗率となりました。

下期（12月～5月）は、上期を上回り、半期の過去最高を更新すると想定しております。

ITサブスクリプション事業の収益は着実に拡大し、ITAD事業もデータ消去や適正処理等の受注が好調で上期より収益が拡大する見込みです。コミュニケーション・デバイス事業は観光需要次第ではありますが、固定費が低く限界利益率が高い収益構造からコロナ禍の影響を最大限見積もっても連結業績への影響は限定的と想定しております。

以上から、通期業績予想（売上高50億円、営業利益・経常利益5億円等）を超えると想定しておりますが、コロナ禍不確実性から正確な予想数値の算出が難しいため、現時点では通期業績予想は修正しておりません。正確な予想が可能となりましたらすみやかに開示いたします。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上